

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) 有限会社 うえの福祉会
さちの家

所在地
(県・市町村名) 鹿児島県鹿屋市上野町5200番地1

記入者名
(管理者) 田中 洋子

記入日 平成 19年 7月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. 自分のペースで生活出来るように、暖かく見守ります。 2. 清潔な場所でオシャレをして、いつも笑顔で楽しく過ごします。 3. 家族や友人との時間を大事にします。 4. 趣味活動を生かしながら生きがい作りを持ちます。 をあげ取り組んでいる		は、ほとんど出来ている。今後は、友人との時間や一人ひとりの生きがいづくり(趣味)を見出して行きたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	体操、歩行訓練、ゲーム、書道、生け花、外気浴、温泉、外食、花見、散髪、家族との交流など取り組んでいる		日々の取組の維持継続する。 太鼓や踊りの時間を大切に(レクにて)
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ハッスルだより(新聞)など、家族の方達へ毎月1回発送し、暮らしぶりなど見て頂いている。		若い時の楽しみを一人でも多く実施出来るようにして行きたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	若い母親が、赤ちゃんを連れてこられ、利用者との交流もある。 常に、玄関、門扉の開放で入りやすくしている。		出来るだけ、気軽に立ち寄ってもらえるように、玄関、門扉の開放 散歩等での挨拶など心掛ける。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、運動会、グランドゴルフなど、積極的に参加している。		出来るかぎりの参加を目指す。

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の話し合い参加している。 運営委員会の設置で状態を聞いたりしているが、役立ってにはなっていない		地域の高齢者等の暮らしに役立つ視点や、行動力などに、貢献して行きたい。町内会での情報、意見をもとに職員会議等で話し合っ取り組む
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価に対して、悪かった部分を中心に、良かった部分も含めて維持できるよう心掛けている。地域交流等が少ないのもっと努力して行く		職員会等で、評価の一連の課程を通じて、質の確保、向上につなげられるよう勉強。また現状維持が出来る様に、常に話し合っている
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、意見を頂き、職員会議等で報告し、サービスの向上に役立てている		利用者に、よりよい環境のもとで、その人に合ったサービスが提供出来る様に、全員で取り組む
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市議員さんや町内会長の意見を頂いている。行事参加を頂いている		よりいっそうの連携を取りあってよりよいサービス向上を目指す。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の理解はあるが活用までは現在いたっていない		学ぶ機会を増やして行く。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	転落防止にて、家族へ相談しベットの柵2本を使用している。 (家族了解) 言葉や暴力等の虐待がないように、努めている。		今後も、職員ひとり、一人が虐待に対する、意識を高め、注意、防止に努める。 ベッド策については、状態観察し、家族との連携を 取りながら使用せず過ごせる様に努力する

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所する際、利用者さん家族の方々に、十分な説明を行い、契約 している。 苦情処理にて対応できている</p>		<p>その都度、家族等の不安、疑問点を苦情箱の設置で解決し納得して頂けるよう、心掛ける。 苦情を大切に受け止め、向上を目指すようにする</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者、及び職員等の意見、不満、苦情などその都度、改善出来るよう努めている</p>		<p>利用者の意見、不満、苦情など、早期解決を心掛け、話し合いを もうける。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、現状報告している。毎月1回、うえのハッスルだより(新聞)などホームでの暮らしなど報告し、健康状態、金銭管理などその都度家族へ連絡している。県外の家族には電話で連絡を取っている</p>		<p>うえのハッスル便りなど細目に発行し、家族の方々に安心、信頼して頂けるようにして行きたい</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情は、その都度対応し改善している</p>		<p>苦情処理ノートを設置し、意見、不満、苦情等の早期解決を心がける</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回、職員会議、ケース会議など行い、それ以外でもその都度開き解決出来るように努めている</p>		<p>常に、意見交換が出来るようにしている</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の就寝時間などに合わせて、スタッフの勤務時間をずらしたり、入浴日のパート増員を行い対応している</p>		<p>行事等へのボランティアなどを推進して行く</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ダメージを防ぐ様、スタッフがより多くコミュニケーションを取りスキップを図る</p>		<p>退職者の理由によっては、利用者にも全面連絡する事なく、臨機応変に対応し、動揺を最小限に保ちダメージを防ぐ様にコミュニケーションを蜜にする</p>

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会等の情報を集め、研修を受けられるスタッフは、出来るだけ受けようとしている</p>	<p>もっと積極的に取り組んで行ける様にな体制づくりを心がける</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム経営者連絡協議会等で情報交換している</p>	<p>同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくり勉強会などとして行きたい</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務希望、勤務交替を全面的に取り入れている</p>	<p>食事会など出来るだけ開き、ストレス解消又チームワークづくりに、スタッフ全員で取り組む</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勉強会への参加に声かけしている</p>	<p>スタッフ同士が意見を出し合い個々が努力して行く</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の困っている事の不安など、本人が納得できるよう努力し対応するよう努めている</p>	<p>話しやすい雰囲気作りに心がける(小さな事でも聞き上手になる)</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けた場合、ただちに対応し、家族、本人が納得できるよう努めている(プランにも活かしている)</p>	<p>話しやすい雰囲気作りに心がける</p>

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めながら、プラン作成している		小さな事でも相談して頂ける様にスタッフが接遇マナーなど勉強して行きたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が場の雰囲気に馴染めるよう声かけし対応を工夫し、職員同士連携など取りながら暖かく見守っている。家族と連携し、時には応援頂く		声かけを多く行い安心して生活できる様に対応する
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話に心がけ共感し共に笑い悲しみ心の通じ合う、良い関係作りに努めている。(昔の歌、踊りを習う、味付けを習うなど)		介護のいない利用者に対しては、会話なども少なくなりがちであるので出来るだけ一人ひとり、じっくりと会話などしてスキンシップを取って行く
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	情報提供、近況報告を行い、家族の意見を聞いたりして、信頼関係作りを行っている		時には、スタッフと家族とのコミュニケーションの場を設ける
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会、誕生会、敬老会、クリスマス会など、本人との交流の場を設けている		家族の方々が来られない利用者様には寂しくないように家族の代わりが出来るように心がける
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方、親戚、友人昔お世話になった方の面会、遠方では、電話されている。暑中見舞い、年賀状を出すなどして、大切にしている		馴染みの人は、時々、面会に来られるが、こちらからの呼びかけと言うのはあまり見られずにいるので、これからやって行きたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	本人のペースに合わせて生活できるように見守りながら、利用者同士と一緒に助け合い、お互いに刺激を受けて楽しい生活が送れる事が私たちの楽しみでもある		出来る範囲内で、助けたり、助けられたりされているトラブル防止に努め孤立のない生活を支援して行く

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院入院の場合は、HPのSWに相談、他施設の場合は、相談員に相談し家族が困らないように大切にしている		入院時は、お見舞いをかねて情報を交換し、より良い日々が過ごせる様に信頼関係が保てるようにする
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時、家族、本人の希望思考を大切にしている。月1回ケース会議、担当者会議で現状を把握し利用者の希望や思考を取り入れた共有の支援をする		プランに取り入れ良い毎日が送れるよう、毎日のコミュニケーションを図る
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との話しを聞き個人記録にて把握に努めている。毎日のコミュニケーション時、昔の良き思い出話など聞かせてもらっている		気付き帳に記入し生活がしやすい状態にする
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース会議等で現状を把握している。毎朝、申し送り、バイタルのチェックで話し合いをし、共通の支援が出来る様にしている。その人らし生活ができるよう努めている		日々の状態チェックやスタッフによる情報交換を行い、ベストな現状維持出来るように努める。(一日の暮らしにメリハリを付ける)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議、担当者会議及び問題発生時に家族、Dr、スタッフ、本人で話し合い、計画を作成している		日々のコミュニケーション作りを大切にしながら、本人のより良い暮らしを見出して行く
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の変更など、見直しする時などはその都度、本人又は家族等に連絡し、新たな計画を作成している		問題が生じたら迅速に対応出来るよう、ケア会議をし本人、家族への報告話し合いをし計画変更にも努める

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の行動を個人記録に記入申し送りノートを活用し、ケース会議、担当者会議を行い情報の共有また、必要に応じ見直しをしている		記録を充実させ情報交換をする
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3年未満のため、受け入れ資格がない		今後の課題である
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回消防との合同避難訓練、野里小学校、民生委員、町内会長さん方に協力頂き、地域での生活が安全に楽しく出来るように支援している		近所、集落との交流をもっと取り入れていきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の活用支援は行っていない		現在、対象者がいないが必要に応じ支援していきます
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は出来ていない		支援センターとの協働はまだ開始されていないが、連携を取り協力頂きたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の係りつけ医により、適切な医療を受けられるようにしている		係りつけ医を大切に、良い関係を保ち安心して毎日を過ごして頂く様に情報交換を密にする

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師とは、その都度利用者の様子など相談し適切な治療を受けられるようにしている		継続している
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	その都度、連携を取りながら相談、支援している		当ホームには、2名の看護師がおりその都度相談、支援している
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会を細目に行い、情報交換や相談に努め早期退院出来るように連携している		継続している
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から、全員で話し合い係りつけ医とも話し合いをし、方針を共有している。必要に応じ家族と話し合い、特老への申請も行っている		家族が近隣にいない方も、電話などで話し合いをし方針を共有している
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化に備えて検討や準備を行い、その都度支援に取り組んでいる		希望に沿える様スタッフで勉強会を開き良い支援が出来るよう努めマニュアル作成などをする
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	細目な情報提供を行っている		情報交換を蜜にし心身のケアに努める

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報やプライバシーは確保されている。ケース会議、担当者会議等を使用する場合、本人、家族に承諾を得ている</p>	<p>継続している</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者さんの希望は、根本的に聞き納得いく形で支援している。自己決定出来ない利用者さんには、自己決定、出来る様な言葉かけを行い支援する</p>	<p>本人のペースで生活できるように見守り支援、共感している</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人のペースで生活できるように見守りながら、レクリエーション、戸外への散歩など有意義に暮らせる様支援している</p>	<p>本人のペースを大切にしている</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎日、身だしなみ(髪、服)清潔に保つよう支援している。理容は、その人が望む店に行ったり、スタッフで理容されたり、それぞれ望み通りできている。</p>	<p>女性の利用者様には化粧やおしゃれが出来る様取り組んで行きたい。男性には、背広など着用する機会も取り入れて行きたい</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの嗜好調査を行い、バランスのある食事を提供している。時々野菜類の皮むきや下ごしらえ等もやっている。軽い物の下膳などしてもらっている</p>	<p>野菜の下ごしらえが多いが、食事を一緒に作れるようもっと積極的に取り組んで行きたい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好調査を行い、本人の嗜好に合わせて楽しめるよう努めている。 晩酌、通の方には(身体上)ポカリ焼酎で対応し、焼酎として大変喜ばれている</p>	<p>季節が感じられるよう、食卓への工夫は出来ているが、もっと工夫して行く</p>

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて、声かけ誘導介助を行ない失禁がないように取り組んでいる		個人により日中は、布パンツでトイレの声かけ誘導をしている。日によりパターンが定まらない時もあるが、あきらめずサインを見つけ気持ちよく暮らして行けるよう努力する
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴に大変喜ばれている、また必要に応じて都度シャワー浴して気分よく過ごされている		入浴の順番を変えて、不公平のないよう心がけている
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、日中の声かけに取り組んでいる		昼間、身体を動かしたりして心身共に安心できるように支援している。(レク、他教室には自由に参加して頂く)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外気浴をしたり外食やドライブに心がけるなど外に出て気晴らしになり楽しい時間をつくるようにしている		行事を取り入れ、張り合いや喜び楽しく暮らせるよう日々目指して行く
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が、お金の管理が出来ておられる。お友達に手紙をだされたりしている		お金を所持して使える方は一部しかいらっしゃらないが、他の人も日常生活品の購入など一緒に行って行きたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事(外食、遠足、温泉、ドライブ、花見)などでは、外出し気分転換出来ているが日常的には出来ていない		楽しく気軽に自由に出かけられる環境作りも心掛ける
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	予定を立て温泉や外食、ドライブ、花見などしている。墓参りなど時々支援しているが、個人的もっと家族の応援を頂きながら増やして行きたい		面会がない人のケアプランに、個人外出を取り入れている。活発に支援して行きたい。行きたい所の聞き取り等、日々話し合っておく

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人に手紙を書かれたり、電話頂いたりしている。また年賀状、暑中見舞いを出したり様子を知らせている		日常、脳リハ活用的に手紙書いたり、習字をしたりしているので、それ等を添えて手紙にしてやり取り出来るよう支援して行きたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入りやすい雰囲気作りに心がけゆっくり過ごして頂けるよう、お茶など出している		明るいあいさつに心がけ、飲み物などを出してゆっくりと会話して頂けるよう努めている
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をせず利用者の自由にさせているが、危ない時は声掛けし見守りをし転倒や怪我に注意している		身体拘束を必要としないケアの勉強会を今後やって行きたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	実施している、利用者が好きな時に戸外に出れる様にしている。(居室、玄関、門扉等、日中は鍵かけしていない)		安全な環境作りの徹底、見守り強化と転倒への見守りには付き添う
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在確認している。スタッフ同士連携を取りながら実施している		常に、所在確認、行動を見守り優しく対応する
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は保管庫に納め、鍵かけしている。また石鹸等は個室に置いてある所もある。(状態に応じ)		常に薬は鍵かけ保管している。危険物(シャンプー、ライターなど)の片づけ忘れのない様につける
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬のないように、スタッフ間で、直前に確認し合い実施している。ヒヤリハット、事故報告などで話し合い常に意識向上に努めるようにしている		夜間2時間おきの巡視、必要に応じて訪室し所在確認、様子観察する。 戸締り、火気確認を必ず行う。小さなヒヤリハットも出し合って、未然に防げる様努力して行く

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議等で、勉強会に出しているが現実には一部の職員のみが出来ている		全ての職員が応急手当や初期対応が出来る様になるまで、定期的に訓練をして行きたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方の協力をしてもらえよう、声かけし定期的に避難訓練をしている		避難訓練等実施している、地域の方々との協力体制を行う
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人、家族へ説明し対応策を話し合っている。又、特老への申請など話し合いの上行っている		一人ひとりの生活感は、さまざまであるが共同生活する事で、住みやすく楽しい暮らしを目指し行っている。家族へは、日々状態報告して話し合っている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、朝食後にバイタルチェックを行い異常のある方は再検し様子観察する。また受診が必要な場合は、家族へ連絡し受診して早めの対応に努めている		その都度、状態変化などの様子観察や水分補給等心がけている
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同志での名前確認(利用者さん)徹底し誤薬しないように服薬支援している。(Dr指示を頂き薬のコントロール等も行っている)		薬保管は鍵付きの棚に直し、誤飲しないよう職員同志確認の徹底を行い、間違いのない様にする
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫(毎朝バナナ牛乳、おやつにサツマイモ類を取り入れる)リハビリ体操、ストレッチ、マッサージ、腹圧、歩行訓練等身体を動かす工夫に取り組んでいる		排便チェックを毎日行い、自然排便出来るよう促し声かけ支援する。水分摂取の声かけを細目に行う
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い義歯や口腔状態を観察している(夜間は、ポリデント使用もある)		義歯等のブラッシング出来る利用者さんには、自力でしてもらい、自立を促す。出来ない利用者さんへは介助し口腔内清潔保持に努める。歯ぐきの確認、噛み合わせなど、本人に聞いたり確認をする。

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に記録し食事、水分摂取状態を把握している。また水分摂取1～1.5を目安に支援する		自分で進んで飲んで頂けるような環境作り声かけなど、取り組んでいきたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種(就寝前イソジンうがい実施)手洗い、うがい、居室の換気、衣類の調整等行っている。排泄介助では、その都度、手洗い、洗浄消毒を行っている。		感染症の対応マニュアルを作成し対応する
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は消毒を行い、生ものは出さない様にして湯せんに必ずかけるようにしている。介助エプロンと調理エプロンの区別、賞味期限を守る		常に手洗い、エプロン交換の徹底、調理器具の消毒(ふきん、まな板)を行う
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉の開放を行い、どなたでも入って来て頂ける様に雰囲気にかかっている		玄関に花を飾り、明るく和める様に心がける
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は、常に清潔にして季節感(壁面や飾り)季節の花を生けて、居心地よく過ごせるようにしている		日々の掃除を徹底する。トイレ臭などない様に心がける
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビ鑑賞されたり、玄関先の渡り廊下に椅子を置き外気浴など楽しめる様にしている		誰が来ても落ち着く場所を目指し、居場所作りを工夫していく

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、写真、本など置き工夫している		思い出の物を持参されて、朝夕手を合わせたり、本人なりの空間作りをされ、ゆっくり過ごされている。また一人ひとりに努める
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の窓やリビングの天窓を開け換気している		温度計で温度差がない様に換気、空調に努めている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりがあり、ギャッジベッド、車椅子対応型の洗面台などバリアフリーとなっている		危険物の整理整頓、行動しやすい空間作りと見守りを強化する
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残存機能を活かして、出来ることを見守り声かけ一緒にしている		残存機能を活かし、出来ることへの声かけ、見守りと一緒に行動する(調理、調理の下ごしらえ、洗濯、物運び等)
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラス下で、夕涼みをしたり、会話をして楽しんでいる		菜園や花園を作り、外気浴など楽しまれている

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 グループホームうえの(さちの家)

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

アピールする程の事は、特にありませんが、利用者様にとって家族と離れて暮らす寂しさを考慮し、毎日楽しく生活出来る様に見守り励ます支援に心がけています。面会じ等に、「前より元気になって、明るくなっている・・・」と喜んで頂ける事にやりがいを感じると同時に常に向上を目指す為には、ご家族様のご意見、ご希望をどしどし頂くことが向上につながります。今後も、転倒しない様に健康管理をしっかり行い、スタッフ一同明るく楽しいホームで生活が送れるように努力して参ります。